

## 細井美裕 「無いに聞く」

Miyu Hosoi "Trusted Silence"

会期：2025年9月5日(金) - 2025年9月29日(月) 10:00 - 17:00

\*9/5のみ13時から開館。

会場：板室温泉大黒屋サロン

協力：Gallery 38

板室温泉大黒屋では2025年9月5日(金)より9月29日(月)まで、サウンドアーティスト細井美裕の個展「無いに聞く - Trusted Silence -」を開催いたします。

細井美裕は東京を拠点に、音の力によって空間や時間の知覚を変容させる可能性を探求してきました。多重録音作品のほか、マルチチャンネル音響を用いたサウンドインスタレーションや舞台作品など、音を通じて空間認識や状況を変化させる幅広い表現を展開し、近年では立体作品の制作にも取り組んでいます。国内外で精力的に活動し、ロンドンのパービカン・センターやフランス国立音響研究所(IRCAM)など世界各地で作品を発表してきました。

大黒屋では2022年、毎月26日に開催している「音を楽しむ会」において、一日限りのサウンドインスタレーションを発表していただきました。今回の展覧会は、それ以来初めてとなる本格的な個展です。本展覧会タイトル「無いに聞く」は英題“Trusted Silence”に由来し、“沈黙に耳を澄ます”という姿勢を示しています。音が供給されるのをただ待つのではなく、音が鳴る直前の緊張や、鳴っていない状態で潜む気配を信頼し受け入れること。細井はその意識を日常の中で保つための“装置”としてサウンドオブジェクトを制作してきました。素材には鈴や時計、金属板など、誰もが知る日常的なものを用いています。なかでも鈴は、鳴ってなくても音を想起させる世界共通の存在であり、匿名性を保ったまま音に実体と場所を与えることができる特別な素材です。細井は「音が立ち上がる寸前の静寂を聞きたい。鳴るのは今ではないことを受け入れ、それ以上を求めず、頭の中で補完する。それで満足できる人になりたい」と語ります。その探求は単なるサウンドアートの枠を超えて「ないこと」や「聞こえないこと」の価値を表現し、「時間認識という錯覚」への問いかけをも内包しています。作品はオブジェクトとして時間を伴いながら、鑑賞者に実時間とは異なる体験を促します。

本展では、新作《無いに聞く》《時間解放運動》《滝》《渴望》をはじめ、フィリピンでのリサーチをきっかけに制作された Human Archive Center シリーズより《パタアン・テクノロジー・パーク》《大きい山》、さらに細井のサウンドオブジェクト制作の契機となった代表的な作品《Fixation 5》《モモ》など、約20点を展示予定です。本展は昨年東京の Gallery 38 で開催された個展「ステイン」の延長線上に位置づけられます。「ステイン」では都市的な環境音や社会的記録を扱ったサウンドインスタレーションを中心に据えながら、さまざまなサウンドオブジェクトも展開されました。これらの関心をさらにサウンドオブジェクトに特化させ、旅館という滞在の場において、訪れる人々の足音やざわめきと、ふと訪れる静けさが交錯する空間を背景に、「静けさの多様性」を多角的に探る展示構成となります。また、大黒屋別館「北の館」1階では、福島県大熊町で本年発表された《轍》を特別展示いたします。本館サロンでの展示とは異なり、地域や歴史と響き合う社会的背景を持つ作品として、少し離れた場所に展示しております。大黒屋本館から少し足を延ばすことでご覧いただけます。

細井美裕が紡ぎ出す静けさと時間の世界を、初秋の板室温泉にてぜひご高覧ください。

---

## 細井 美裕 Miyu Hosoi

1993年愛知県生まれ、慶應義塾大学総合政策学部卒業。

多重録音作品のほか、マルチチャンネル音響をもちいたサウンドインスタレーションや舞台作品など、空間の認識や状況を変容させる音に焦点を当てた作品を制作。

近年は国内外でアーカイブ、リサーチベースのプロジェクトに取り組む。

### <近年の主な展示・活動>

#### 個展

- 2025 ステイン (Gallery 38、東京)
- 2023 起点 (長野県立美術館)
- 2023 配置訓練 細井美裕 + 比嘉了 (長野県立美術館)
- 2022 Nature Manqué - なりそこないの自然 (板室温泉大黒屋)
- 2022 ON PAROLE / Rittor Base, 令和2年度メディア芸術クリエイター育成支援事業
- 2020 Lenna (札幌文化交流センター SCARTS)
- 2019 Lenna (山口情報芸術センター [YCAM])

#### グループ展

- 2025 六本木クロッシング：時間は過ぎ去る わたしたちは永遠 (森美術館、東京) \*12月より
- 2025 Feel the Sound (Barbican Centre、ロンドン)
- 2025 IRCAM Forum (IRCAM、フランス国立音楽音響研究所、パリ)
- 2025 見えない気配 / 痕跡 ワークインプログレス展 (福島県大熊町 OIC)
- 2024 Gwangju Biennale Indonesia Pavilion "The Broken Hearts are Singing" (光州、韓国)
- 2024 ICC アニュアル 2024 とても近い遠さ (NTT インターコミュニケーションセンター東京)
- 2023 台湾文化科技大會 (Kaohsiung Music Center、台湾)
- 2022 Sense Island 暗闇の美術島 (猿島)
- 2021 オープン・スペース 2021 ニュー・フラットランド (ICC、東京)

#### 舞台作品

- 2025 世界交換手 (ロームシアター京都)
- 2024 Tangent (高谷史郎 [ダムタイプ] 演出、ヴェネチア・ビエンナーレ ダンス部門 / ロームシアター京都ほか)
- 2023 辿り着いたうねりと遠回りの巡礼 (ヌトミック + 細井美裕、愛知県芸術劇場)
- 2019 Sound Mine (細井美裕 + 石若駿 + YCAM、山口情報芸術センター [YCAM])

#### 受賞

- 2023 Pen Creator Awards 特別賞
  - 2021 Forbes JAPAN 「30 UNDER 30 JAPAN」
  - 2020 第23回文化庁メディア芸術祭アート部門新人賞
-